

## 令和5年度(2023年度)総務常任委員会管外視察の概要

- 1 視察日 令和5年(2023年)11月6日(月)～8日(水)
- 2 視察者 総務常任委員会(7名)  
岩本浩治(委員長)、南部隼平(副委員長)、溝口幸治、高木健次、西山宗孝、幸村香代子、立山大二郎

### 3 視察の概要

#### (1) 平泉世界遺産ガイダンスセンター

平泉世界遺産ガイダンスセンターは、世界遺産として登録された「平泉の文化遺産」の価値を広く世界中に伝え、人類共通の財産として後世へ継承するための拠点として岩手県が設立し、「平泉の文化遺産」の構成資産及び関連する遺跡の周遊の出発点として、その価値や特徴を分かりやすく紹介している。

今回の視察では、世界文化遺産登録までの経緯や登録後の効果について説明を受け、施設の見学後に意見交換を行った。

平泉世界遺産ガイダンスセンターからは、暫定一覧表掲載から世界遺産登録まで約20年と長いスパンでの取組が必要だったが、登録後は来訪者がかなり増加した、現在も県及び関係市町において、当初登録されていない遺産の世界文化遺産への拡張登録を目指した取組を継続しているとの説明があった。



#### (2) 毛越寺

毛越寺は、平成23年(2011年)6月に、平泉町の中尊寺金色堂など他の4つの文化遺産と共に世界文化遺産の構成資産として登録されている。

今回の視察では、構成資産の実例としての毛越寺の概要及び世界文化遺産登録後の状況等について説明を受けた。

毛越寺からは、昭和末から平成初期の整備によって往時の庭園空間に修復・復元整備されたが、東日本大震災で庭園の象徴的存在である立石が傾いたため、災害復旧事業により修復工事が行われた、前回の修復・復元工事完成から30年近くが経過し、伽藍の基壇遺構などにも損傷が認められることから、立石の修復を契機として、2度目となる保存整備事業を実施しているとの説明があった。



### (3) 東日本大震災津波伝承館

東日本大震災津波伝承館は、「いのちを守り、海と大地と共に生きる」を展示テーマに、三陸の津波被害の歴史や東日本大震災津波、復興の取組に関わる映像、写真、被災物などを展示している。

今回の視察では、施設運営面での取組について説明を受け、施設の見学後に意見交換を行った。

東日本大震災津波伝承館からは、来館者に対して常に新しい情報を提供できるように、展示スペースの説明を担当する解説員を対象に年数回の研修を行っている、来館者への説明では、住民の方々が率先して避難することが消防団の方々の犠牲を食い止めることにつながることを伝えているとの説明があった。



### (4) いのちをつなぐ未来館

いのちをつなぐ未来館は、東日本大震災の教訓を後世に伝え、次世代を担う子どもをメインターゲットにした防災学習を推進する拠点施設である。

今回の視察では、施設の概要及び展示内容について説明を受けた。

いのちをつなぐ未来館からは、館内は常設の展示室、震災関連の書籍や資料等を収蔵・閲覧可能な資料閲覧室、防災学習室の3つのゾーンで構成されている、市内の小中学生や地域住民をはじめ市内外からの様々な来館者に対して、ワークショップ・講話・語り部活動など幅広く防災学習体験プログラムを提供しているとの説明があった。



### (5) 岩手県立大学

岩手県立大学は、4つの学部で構成され、学部間連携による共同研究など学際的、総合的な教育研究活動を推進しているほか、「地域政策研究センター」を開設し、産業界や各種団体・行政機関と連携し、地域課題の解決を目指しながら、地域貢献に取り組んでいる。

今回の視察では、同大学における県内就職支援の取組、公立大学としての被災地支援、大学における地域連携について説明を受け、意見交換を行った後、敷地内の滝沢市IPUIノベーションセンターを見学した。

岩手県立大学からは、次に発生する大



災害に対する支援に向けて教職員及び学生のリソースを管理するための組織として防災復興支援センターを設置した、また、地域連携の取組の1つとして、学内に設置されているイノベーションセンターに参画する企業を大学の学部・研究科と同等の企業学群として捉え、情報の共有、相互の信頼・協調関係を促すような集積拠点を実現することにより、産官学連携による事業共創やイノベーション創出、人材育成を目指しているとの説明があった。